

「活力ある産業が芽吹くまち」をめざして 新宿区産業振興基本条例



産業振興基本条例は、産業振興に関する基本的な考え方を示すとともに、産業に携わる者の役割を明らかにして、持続的・体系的な施策の展開や課題の解決を図っていくための指針となるものです。

区民、事業者、商店会、産業経済団体、金融機関、教育研究機関、そして区。

産業に携わる皆が、それぞれの役割を自覚し、一体となって「活力ある産業が芽吹くまち」の実現をめざします。

新宿区産業振興基本条例を施行しました

新宿区産業振興基本条例とは

産業振興に関する基本的な考え方を示すとともに、産業に携わる者の役割を明らかにして、持続的・体系的な施策の展開や課題の解決を図っていくための指針となるものです。

区では平成21年10月から制定に向けた取り組みを行い、平成23年4月1日に「新宿区産業振興基本条例」を施行しました。

1 条例の特色 〈4つの基本理念〉

産業振興の基本的な考え方を示すものとして4つの基本理念を規定しています。

- ・創意工夫と自助努力に基づく事業活動を促進すること
- ・中小企業者の活力ある成長と発展をめざすこと
- ・商店街の発展と活性化を図ること
- ・創業のための環境整備、創造力ある産業の育成

2 条例の特色 〈各主体の役割〉

区の産業に携わる多彩な担い手の役割を明らかにし、一体となって産業振興に取り組むことを規定しています。

- ・区の責務
- ・事業者の役割
- ・商店会の役割
- ・産業経済団体の役割
- ・金融機関の役割
- ・教育研究機関の役割
- ・区民の役割

3 条例の特色 〈産業振興会議〉

産業振興施策を効果的・効率的に実施していくため、区長の附属機関として「新宿区産業振興会議」を設置します。

区民・学識経験者・事業者・商店会等からなる委員が区の産業振興について定期的に評価・検討を行っていきます。

新宿区産業振興基本条例の概要

前文

条例の基本的考え方

目的(第1条)

定義(第2条)

基本理念(第3条)

各主体の役割

区(第4条)

事業者(第5条)

商店会(第6条) 商店会加入促進

産業経済団体(第7条)

金融機関(第7条)

教育研究機関(第7条)

区民(第8条)

産業振興施策の公表
(第9条)

産業振興会議
(第10条～第12条)

「活力ある産業が芽吹くまち」の実現

新宿区産業振興基本条例

新宿のまちは、先進性を持つ国際色あふれるにぎやかな姿を見せる一方で、歴史と伝統が息づく緑豊かなやすらぎのある姿を見せる個性豊かな都市として発展を遂げてきた。暮らしの場、働く場、学びの場、集いの場として多くの人々が行き交う中で、多種多様な価値や文化を受け入れ、活力ある産業を育み、その魅力を向上させてきた。

産業は、私たちの生活と地域社会に密接な関わりを持つものである。産業は、私たちの生活に必要なとされる様々な物やサービスを提供するとともに、それらの物やサービスの循環を通じて新たな物やサービスを生み出し、地域ににぎわいと豊かさをもたらし、私たちの生活を向上させ、地域社会を発展させてきた。

私たちは、新宿のまちにおいて産業が果たす役割が、将来においても変わることなく重要なものであると確信する。

しかしながら、新宿のまちを取り巻く環境は日々目まぐるしく変化し、社会構造の変化や生活様式の多様化により、中小企業者を始めとする事業者や商店街の活力を維持向上させるための環境は厳しさを増している。このような環境の改善に向けた取組を一層充実させるとともに、社会経済状況の変化に対応することができる創造力のある産業やその担い手を育成する必要性が生じている。

こうした事態に対処するためには、区民、事業者、商店会、産業経済団体、金融機関、教育研究機関及び新宿区その他産業に関わるすべてのものが、それぞれの役割を自覚し、一体となって「活力ある産業が芽吹くまち」の実現を目指し、それによって産業の振興を推進していく必要がある。

ここに、産業の振興についての基本理念を明らかにしてその方向性を示し、産業の振興を総合的かつ恒常的に推進していくため、この条例を制定する。

(目的)

第1条 この条例は、新宿区(以下「区」という。)における産業が区民生活及び地域社会にとって重要な役割を果たしていることに鑑み、区における産業の振興(以下「産業振興」という。)に関する基本理念を定め、区の責務並びに事業者、商店会、産業経済団体、金融機関、教育研究機関及び区民の役割を明らかにすることにより、産業振興の総合的かつ恒常的な推進を図り、もって区民生活の向上及び地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(定義)

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 区民 区の区域内(以下「区内」という。)に住所を有する者、区内に存する事務所又は事業所に勤務する者、区内に存する学校に在学する者及び区内において活動する者をいう。
- (2) 事業者 区内において事業を行うものをいう。
- (3) 商店会 区内における商店街の振興を目的として組織する団体をいう。
- (4) 産業経済団体 区内に存する商工会議所その他の産業の振興を図ることを目的として組織する団体をいう。
- (5) 金融機関 区内において事業を行う銀行、信用金庫、信用組合その他の機関をいう。
- (6) 教育研究機関 区内において産業振興に資する調査研究及び教育を行う大学その他の機関をいう。

(基本理念)

第3条 産業振興は、事業者が創意工夫及び自助努力に基づく事業活動を行うとともに、区、商店会、産業経済団体等が一体となって、当該事業活動を促進することを基本とする。

- 2 産業振興は、中小企業者の活力ある成長と発展を目指すことを基本とする。
- 3 産業振興は、商店街の発展と活性化を図ることを基本とする。
- 4 産業振興は、社会経済状況の変化に適切に対処するため、創業のための環境を整備するとともに、創造力のある産業を育成することを基本とする。

(区の責務)

第4条 区は、前条に規定する基本理念に基づき、次に掲げる事項を基本的施策として実施するものとする。

- (1) 事業者の創意工夫及び自助努力に基づく事業活動を支援すること。
- (2) 産業振興に関するネットワークを形成すること。
- (3) 産業に関する情報を収集し、及び発信すること。
- (4) 産業振興を担う人材を発掘し、及び育成すること。
- (5) 社会経済状況の変化に対応する事業転換を支援すること。
- (6) 創業及び事業承継のための環境を整備すること。
- (7) 創造力のある産業を育成すること。
- (8) 中小企業者の活力ある成長と発展のための取組を行うこと。
- (9) 地場産業の持続ある発展のための取組を行うこと。
- (10) 商店街の発展と活性化のための取組を行うこと。

2 区は、前項の基本的施策(以下「基本的施策」という。)を実施するに当たっては、必要に応じて区民、事業者、商店会、産業経済団体、金融機関及び教育研究機関との連携を図るものとする。

3 区は、基本的施策を効果的かつ効率的に実施するため、都市計画、文化、福祉、教育、環境等の施策との調整を図り、産業振興に関する総合的な計画を定めるものとする。

4 区は、基本的施策を実施するに当たっては、組織体制を整備するとともに、財政上の措置を講ずるものとする。

(事業者の役割)

第5条 事業者は、創意工夫及び自助努力に基づく事業活動を行うとともに、経営基盤の強化、当該事業活動に係る情報発信及び雇用の創出に努めるものとする。

2 事業者は、自らの事業活動が従業員によって支えられていることから、従業員の育成と福利厚生への増進に努めるものとする。

3 事業者は、自らが地域社会の一員であることを自覚し、地域社会との調和を図り、その発展に寄与するよう努めるものとする。

(商店会の役割)

第6条 商店会は、商店街が産業振興のみならず、地域の安全・安心の推進等地域におけるコミュニティを支える上で多面的で重要な役割を担っていることから、商店街の活性化に努めるものとする。

2 商店会は、商店会を構成する事業者が行う事業の魅力の向上が商店街の活力ある成長と発展をもたらすことから、当該事業者の創意工夫及び自助努力に基づく事業活動の促進に努めるものとする。

3 商店会は、加入者を増やすことによりその組織力の強化を図るとともに、商店街において小売業等を営む事業者は、商店街の重要性を理解し、その活性化に協力するため、商店会に加入するよう努めるものとする。

(産業経済団体等の役割)

第7条 産業経済団体は、事業者が創意工夫及び自助努力に基づく事業活動を行うことができるよう、必要な環境整備に努めるものとする。

2 金融機関は、事業者が経営基盤を強化し、及び経営革新に取り組むことができるよう、経営支援を行うことにより、産業振興の推進に寄与するよう努めるものとする。

3 教育研究機関は、産業振興に関する調査研究の成果の普及を図るとともに、産業振興を担う人材を育成するよう努めるものとする。

(区民の役割)

第8条 区民は、産業が生活に必要なとされる物やサービスを提供する等区民生活に密接に関わっていることから、その消費活動を通じて産業振興の推進に寄与するよう努めるとともに、区、事業者又は商店会が行う産業振興を推進するための様々な取組に協力するよう努めるものとする。

(産業振興施策の公表)

第9条 区長は、毎年1回、産業振興に関する主たる施策の実施状況を取りまとめ、これを公表するものとする。

(産業振興会議の設置)

第10条 産業振興に関する基本的事項について調査審議するため、区長の附属機関として、新宿区産業振興会議(以下「産業振興会議」という。)を設置する。

(所掌事務)

第11条 産業振興会議は、次に掲げる事務をつかさどる。

- (1) 次に掲げる事項について調査審議すること。
 - A 基本的施策に係る重要な事項
 - イ 産業振興に関し、区長が諮問する事項
- (2) 産業振興を図るために必要な事項について、区長に意見を述べること。

(組織)

第12条 産業振興会議は、委員13人以内をもって組織する。

2 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、学識経験を有する者、区民及び事業者(法人その他の団体にあっては、その構成員)並びに商店会、産業経済団体、金融機関及び教育研究機関のそれぞれの関係者のうちから、区長が委嘱する。

4 前3項に定めるもののほか、産業振興会議の組織及び運営に関し必要な事項は、新宿区規則で定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、平成23年4月1日から施行する。(以下省略)

産業振興基本条例に期待します

(仮称)新宿区産業振興基本条例に関する懇談会

産業振興基本条例は、平成21年10月に区民・学識経験者・事業者・商店会・産業経済団体・区で構成される「(仮称)新宿区産業振興基本条例に関する懇談会」を設置し、検討が進められてきました。

懇談会では、区の現状や課題、産業振興の方向性、産業が活性化するための環境など様々な視点から幅広い議論を行いました。平成22年8月には条例素案を含んだ「(仮称)新宿区産業振興基本条例に関する提言書」が区長へ提出され、区はこの提言を踏まえ条例制定へ取り組んできました。



「条例は、スタート」

1年間にわたる議論の中で、新宿の奥の深さ、可能性を強く実感しました。新宿の産業には、元気になる条件や可能性は絶対あるし、新宿が変わらなければ日本経済はよくなりません。とはいえ、新宿に課題が多いことも事実です。まだまだ可能性が生かされていないし、産業活性化のしくみも未熟です。条例は、こうした状況を変えていく大きな一歩です。

しかし、本当に大事なのは、これからです。条例は、スタートです。本当に真価が問われるのは、これからです。新宿パワーを産業振興にぜひ生かして欲しいと思います。

植田 浩史 (仮称)新宿区産業振興基本条例に関する懇談会会長
慶應義塾大学経済学部教授

「産業振興基本条例の2つの意味」

この「産業振興基本条例」は、2つの意味があります。1つは、地域社会の活力の源泉である地域に立地・集積している産業・企業の重要性を地域が明確に認めるとともに、それを地域が積極的に振興・支援することの必要性が示されたことです。そしてもう1つは、地域に立地・集積する産業・企業に対し、主体的な努力義務や、その方向を明確に示したことです。

誤解されては困るのは、この条例は、経営革新の努力を怠る産業・企業を保護・救済するためのものではなく、価値ある、なくてはならない産業・企業を地域内に多数立地・集積させるために制定されたのです。

この条例の制定を機に、各当事者が、自らの役割と責任を自覚し、それを積極的に果たして欲しいと思います。

坂本 光司 (仮称)新宿区産業振興基本条例に関する懇談会副会長
法政大学大学院政策創造研究科教授

「日本経済の中心的な役割を担う都市」

新宿区は日本経済の中心的な役割を担う魅力的な都市です。その新宿区が、本気で継続的に産業振興に取り組む基盤となる「新宿区産業振興基本条例」が制定されますことは、新宿区とともに日本経済にとって非常に重要なことです。この条例に関する懇談会の委員として携われたことは大きな喜びであり、そして委員の皆様からたくさんの示唆を頂きました。本当にありがとうございました。今後は、条例に基づき、具体的な政策に取り組みますよう期待しております。

関 幸子 (仮称)新宿区産業振興基本条例に関する懇談会副会長
NPO法人地域産業おこしに燃える人の会理事長

「(仮称)新宿区産業振興基本条例に関する提言書」より抜粋